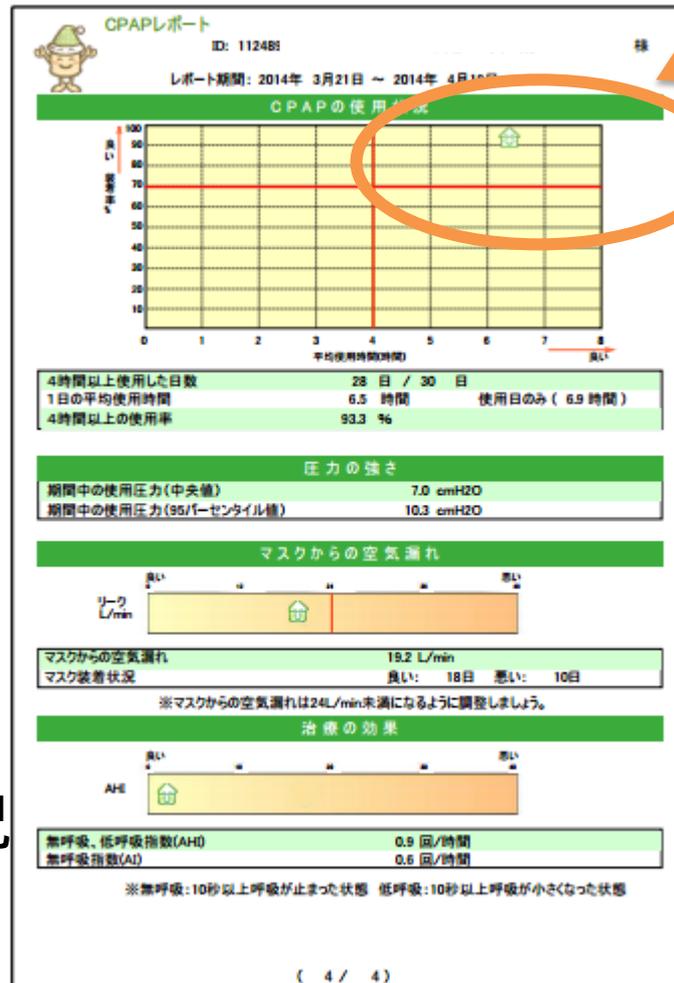


患者さん用レポート

1日4時間以上・
装着率70%以上



使用状況
使用圧の状況
マスクの装着状況
無呼吸の状況

概要・グラフレポート(医療者用)



概要レポート

ID: A00005 氏名: 加藤一郎 様

レポート期間: 2011年11月 7日 ~ 2011年12月 6日

使用状況

使用日数	30日 / 30日
使用率	100.0 %
4時間以上使用日数	20日 / 30日
4時間以上使用率	66.6 %
最大使用時間	7時間 14分
最小使用時間	0時間 51分
平均使用時間	4時間 41分

治療圧力

最大圧力	13.0cmH2O
95%圧力	11.6cmH2O
中央値圧	7.3cmH2O

リーク

最大リーク	115.2L/min
95%リーク	28.8L/min
中央値リーク	0.0L/min

治療効果

AHI(無呼吸低呼吸指数)	4.3回/時間
AI(無呼吸指数)	3.3回/時間
OAI(閉塞性無呼吸指数)	0.2回/時間
CAI(中枢性無呼吸指数)	2.4回/時間
UNKNOWN(判定不能)	0.0回/時間
HI(低呼吸指数)	0.8回/時間

装置設定値

機種名	スリープメイト S9 Auto				
モード	AutoSet				
設定圧	最大	0.0	最小	20.0	CPAP圧
EPR設定	Off				
EPRLレベル	0.0				

(1 / 5)

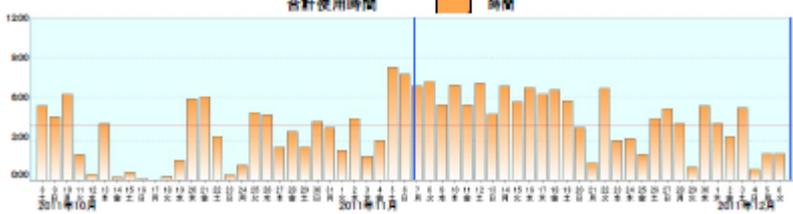


グラフレポート

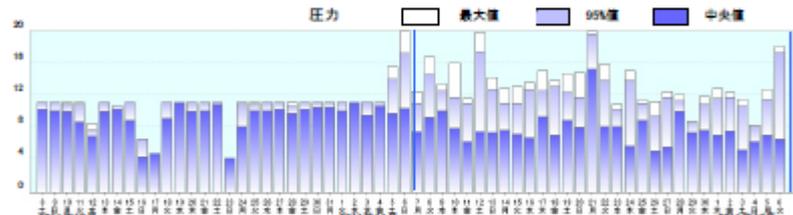
ID: A00005 氏名: 加藤一郎 様

レポート期間: 2011年11月 7日 ~ 2011年12月 6日

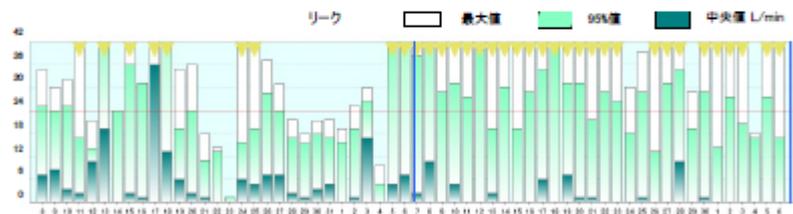
合計使用時間 時間



圧力 最大値 95%値 中央値



リーク 最大値 95%値 中央値 L/min



AHS&AI AHI AI



※ ▼ グラフ表示終了

(2 / 5)

遠隔モニタリングシステム(ネムリンク)とSDカードによる診療の違い

遠隔モニタリング

長所

- ・事前にデータを参照することにより診療前日には使用状況が把握できる。
- ・ 医療従事者の負担軽減

短所

- ・ 外来予約に合わせてデーターを閲覧するので常時モニタリングをしているわけではない。
- ・ 患者 医療者と一方向の情報のため設定変更等はできない。

SDカード

短所

- ・ 患者が受診時にもってこなければデーター解析ができない。
- ・ 診療当日のマンパワー的な事もありすぐに解析できない。
(その他の業務を兼ねている。)
結果、次回受診日に結果説明となる場合も多い。

【目的】

臨床工学技士の負担軽減と診療前に確実にAHI等のデータを手に入る以外の有用性があるかを検討した。

【方法】

2012年4月～2014年10月の期間、SDカードで診療している(33名)と遠隔モニタリングシステムで診療している(30名)(SDカードからの変更は含まない)の継続率をレトロスペクティブに比較検討した。

遠隔モニタリング VS SDカード

遠隔モニタリング群

SDカード群

全患者数(人)	38	36
男:女	30:8	31:5
導入時平均年齢(歳)	53.6 ± 12.9	62.0 ± 10.9
転院患者数(人)	5	6
Drop Out(人)	9	13
継続率(%)	72.7	60

・継続率は、転院の場合を除き、当院でフォローアップしているCPAP使用者のみとした。

結果

SDカード群と遠隔モニタリング(ネムリンク)群
では継続率は遠隔モニタリング(ネムリンク)群
の方が高かった。

アンケートの方法

- **対象** カード管理からネムリンクに変更した患者33名

(男性:26名、女性:7名、平均年齢:61.4歳)

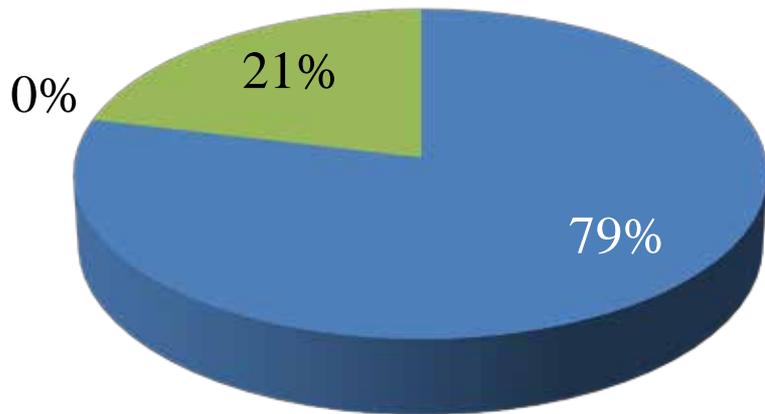
- **方法** 選択式(一部記述式)

質問項目

- 遠隔モニタリングへ変更して煩わしさは減少しましたか？
- 安心感は向上しましたか？
- ご自身の療養レポートをお渡しすることに関してどのように思われますか？
- レポートの内容に興味をおもちですか？
- 個人情報漏えいなどに関して不安はありますか？

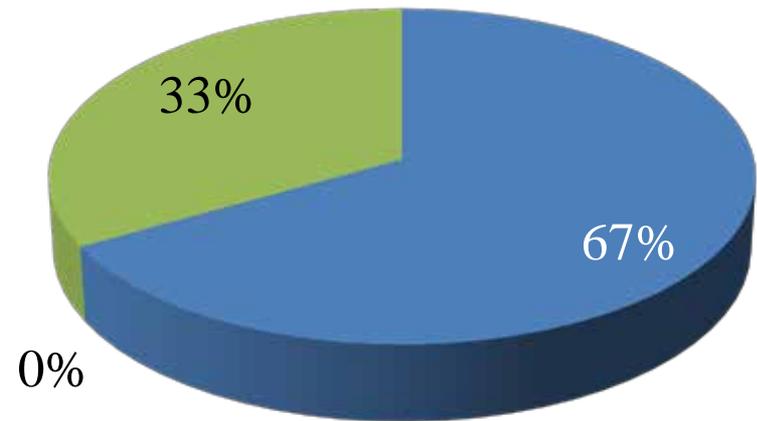
アンケート結果

Q1.遠隔モニタリングへ変更して
煩わしさは減少しましたか？



- 減少した
- 増加した
- どちらでもない

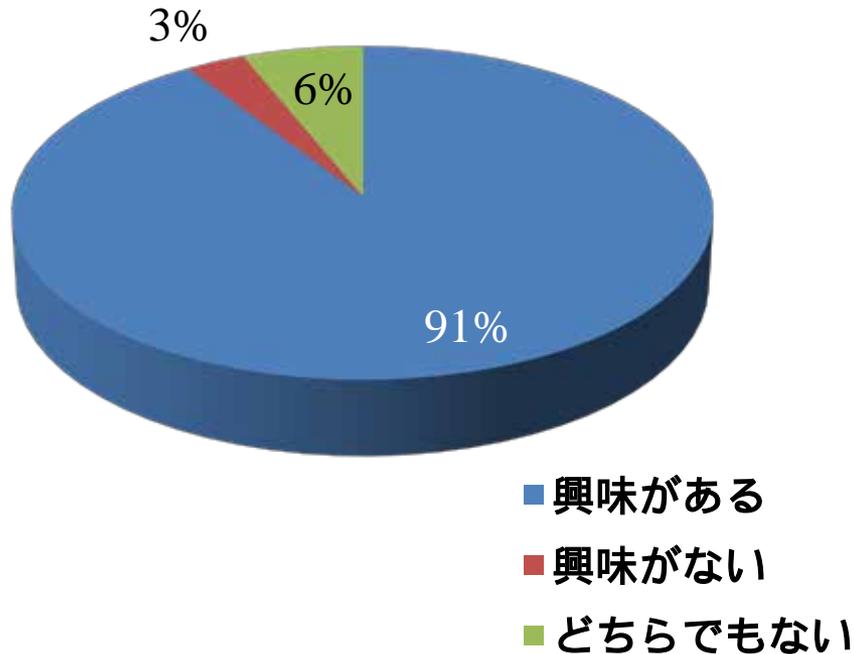
Q2.安心感は向上しましたか？



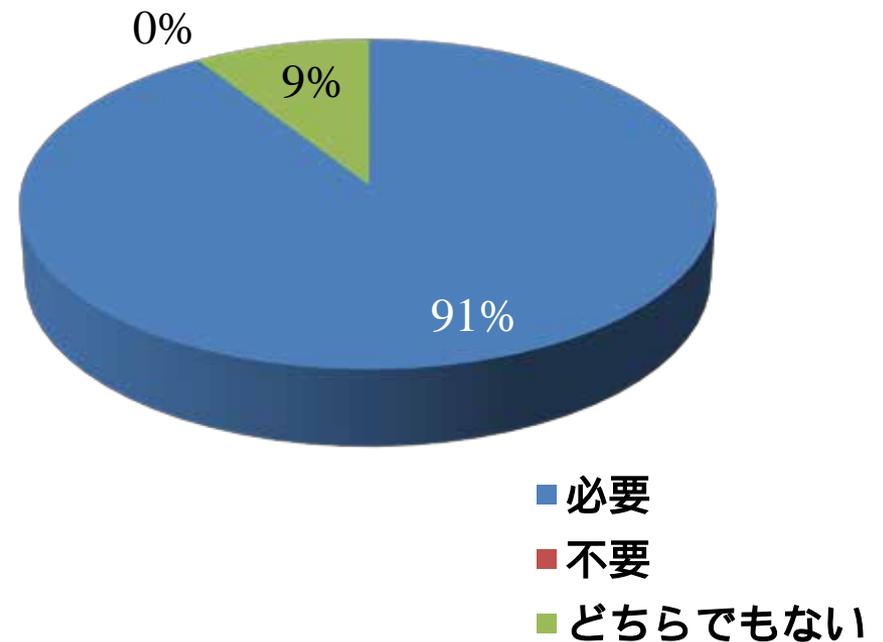
- 向上した
- 低下した
- どちらでもない

アンケート結果

Q3.療養レポートに興味はありますか？

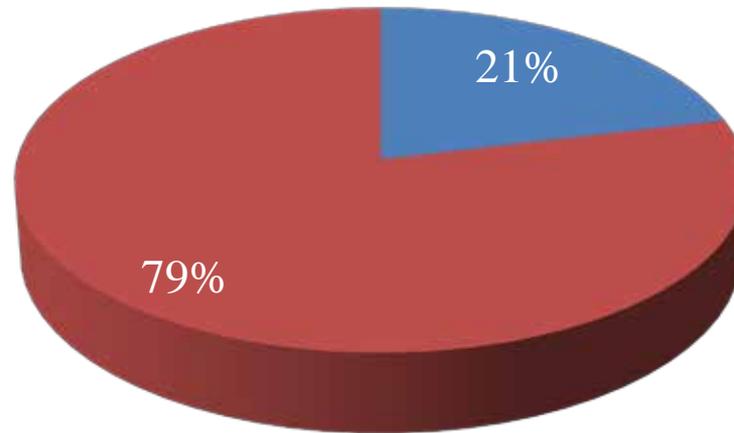


Q4.レポートを渡すことについてどう思われますか？



アンケート結果

Q5.情報漏洩の心配はありますか？



- 不安がある
- 不安はない

遠隔モニタリングシステムの有益性

- ・CPAP療法の継続率が上がるため、予後の改善に寄与できる。
- ・医療従事者の負担を軽減し、マンパワー不足を解消し、院内業務の効率をあげる。
- ・アンケートの結果より、患者の治療への意識を高めることができる。

結語

遠隔モニタリングシステムであるネムリンクは睡眠時無呼吸症候群の診療において有益であると考えられ、患者の利便性や医療従事者の負担軽減の観点から、受診頻度を軽減できる仕組みの検討が必要である。